

序

私は、大学病院・総合病院に勤務している間は、自分の専門分野を極めながら、専門外の知識が必要な時には専門医の先生と気軽に相談することができ、総合的に診察する機会に恵まれていた。その後、2つの地域クリニックの新規開設に院長として関わることができ、初期準備の大変さを実感した。

診療所やクリニックでは、プライマリ・ケア医として幅広い知識と一人で判断することを求められることが多い。日々の診療をしながら自分の専門外の知識と技能を習得する必要がある。残念ながら、日常診療でよく遭遇する疾患・症状に特化した書籍が少ないのが現状である。そこで、この一冊があったら日常診療に役に立つのではとの思いで本書を企画した。

本書の内容としては、一般外来で診察する機会の最も多い生活習慣病に重点を置き、日常診療でよくみられる疾患・症状、そして専門性が高いが頻度が多く必要性の高い疾患を扱った。大学病院・総合病院で遭遇するような稀で専門性の高い医療を要する疾患は省いた。健康診断・人間ドック・外来診療でよく遭遇する臨床検査の異常値とその見かた・鑑別診断の項を設けた。すぐに役立つ漢方薬、患者さん個別のオーダーメイド治療、予防接種計画の作成・予防接種の種類と比較、ウイルス抗体検査の判定基準などを示し、専門でない医師でも簡単に判断できるように表示した。

本書は疾患の病態、治療目的、治療内容をまとめた図表を多用し、新しいガイドラインに沿って何度も推敲を重ねた。図表は患者さんとの対話を楽しみながら診察を進めていくツールとして活用してほしい。診察中に患者さんから受けた質問についての解説は一口メモなどに記述した。

本書が多忙な日常診療の中で幅広く診察を行っている多くの先生方、特に新規に開業される先生や、すでに開業し一人で診察して専門以外の診療内容に不安をかかえている先生、普段は総合病院で専門医として勤務している先生が外勤先で幅広く知識を求められる立場となった時、あるいは研修医・専攻医を終えてまだ医師としてのキャリアの浅い若手先生、などの診療のお役に立てればと考えている。

本年6月から診療報酬の改定により、生活習慣病に関して患者さんに治療計画などの説明が求められることとなったが、本書がその一助となれば幸いである。

最後に、本書の執筆にあたり完成まで多岐にわたりご尽力いただいた羊土社編集部、企画担当久本容子様、制作担当林理香様に深謝します。

2024年7月吉日

大玉信一